

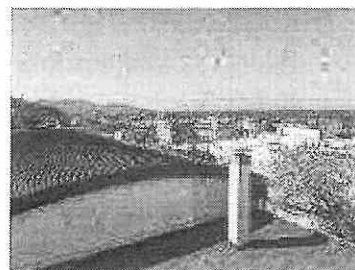
令和5年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報 告 地 区：小樽地区
- 2 事例報告学校名：小樽市立朝里小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 岡 田 貴 幸
- 4 キーワード：地域の風が行き交う「私たちの学校」

1 はじめに

147年の歴史をもつ本校は、ここ数年、児童数は毎年微増しており、後志において一番の児童数を誇る。大きな学校であるが、地域とのつながりは強く、様々な場面で地域に見守られ、ともに活動する学校の様子がある。

町づくりに積極的な地域は年間を通して様々なイベントや地道で継続的な地域環境の整備に尽力している。これらの活動によって、本校の子どもたちが安心感をもつとともに、この地域に住む喜びを感じていることが、児童質問紙にある「あなたは地域のために何かしたいと思いますか」に対する回答から察することができる。本校の子どもたちは、この質問に対して9割が肯定的な回答を示し、この傾向は毎年続いている。一朝一夕では育むことができない子どもたちの郷土への思いは、数十年にわたる地域の方々の愛情に満ちた取組と学校の願いがよりよく関わり合ってきた成果である。



2 行き交う地域の風

(1) 登校見守り活動、温かい挨拶

数十年続いている「朝里地区少年を守る会」の見守り活動。登校時間の見守り活動は、「おはようございます」という挨拶とともに行われ、本校の子どもたちも、元気にそれに応える姿がある。特に今年度は、交通事故を紙一重で防いでいただいた場面もあり、保護者からも感謝の声が届いている。朝里地区少年を守る会の役員の方とは定期的に連絡を取り合い、子どもたちの様子について共有している。



(2) 読み聞かせ、優しい雰囲気



地域の読み聞かせボランティアグループによる絵本の読み聞かせ。各教室での朝の時間や放課後の図書室で行われている。子どもたちは、それを楽しみに集まり、いつもそこには優しい空間が広がっている。

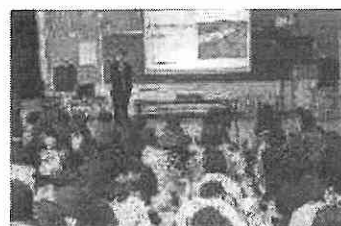
(3) 町を探検、地域の方とのふれあい

子どもたちが小グループに分かれて町を探検。商業施設・交番・幼稚園等、地域の生活に関わる場所に出向いて、そこで働く方々と交流し、地域をさらに知っていくきっかけとしている。訪問を受ける各施設の方々は、子どもたちの来訪を快く、そして温かいまなざしで迎えてくれている。



(4) 地域を学ぶ、町づくりへの参画

地域の事に詳しい方々に講師としてお話をさせていただく、そして町づくりに参加する総合的な学習の時間。朝里地区少年を守る会・町づくりの会・商工会議所・市環境課・町内会代表の方等々、朝里の歴史・地域資源・地域環境について、詳しく講義をしてもらう。大切にしているのは、その学びから自分たちができる事と自分たちが望む地域の在り方を表現して伝える事。地域の方々をお招きし、自分たちが考えたこれからの朝里の町、持続可能な町づくりの在り方を提言していく。あわせて、地域が企画している花壇の植栽事業等、地域の一員として町づくりに直接関わることで貢献の仕方を学び、実感の伴ったやりがいや達成感を感得している。



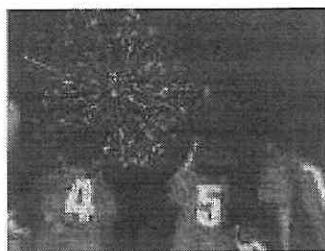
(5) 学習支援ボランティア、目標の共有



教育活動への協力を積極的に呼び掛けている。例えば「ミシンを使った学習」「小グループによる校区内探検」「スキー学習」等、複数の大人の目で子どもたちの安全を見守りたいときには、保護者へ呼びかけてお手伝いを依頼。参加された保護者の方からは、普段の様子を垣間見ることで子どもたちの成長を感じながら、先生方の労をねぎらう言葉も聞こえてくる。まさしく、教育活動を通して、子どもを理解し目標を共有する大切な機会と捉えている。

(6) 地域行事への参加、一体感

やまべの放流・リバーサイドフェスティバル・現代アート展・朝里神社例大祭・子ども相撲大会・雪あかりの路等々、地域では子どもたちが楽しんでいる行事が四季を通して開催されて



いる。子どもたちは、それぞれの催しにこぞって参加し、その雰囲気を楽しむことで、朝里の町としての一体感を感じているようである。

3 おわりに

地域は、開拓とともに自ら学校を創り、学校を生活の中心としてきた。予測困難な時代だからこそ歴史に倣い「よりよい学びは、よりよい社会を築く」という信念のもと、家庭や地域とともに、校内外における子どもの生活の充実と活性化を図ることが重要である。

本校には、コミュニティ・スクールが導入されるより前から、学校と地域が力を合わせて子どもたちの成長を支えていくという願いが共有され、「地域とともにある学校」という素地があった。子どもたちはその環境の中で安心と喜びを感じながら、郷土への思いを育んできたのだろう。

これからも、様々な教育活動においてそれぞれの役割を踏まえて関わり合うことで目標を共有し、子どもたちの健やかな成長をともに喜び合いたい。子どもたち、家庭・地域、そして私たち教職員が「私たちの学校」と、自信と誇りをもって言えるようにしていきたい。